
家庭、技術・家庭分科会

I 研究のあゆみ

4月24日（木）	2025年度名教組教研オリエンテーション （2025年度名教組教育研究活動の進め方）	【教育館】
5月上旬	発表テーマ集約	
5月23日（金）	研究計画の検討	【東陵中】
6月上旬～7月下旬	研究内容やまとめ方の検討	【個別指導】
8月上旬～9月上旬	レポートやプレゼンテーションの検討	【個別指導】
9月上旬～9月中旬	市集会発表内容の検討（リハーサル）	【個別指導】
9月20日（土）	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

名古屋市が示す「ナゴヤ学びのコンパス」を授業づくりの土台とし、子どもが生き生きと学びに向かう姿を求めて実践を進めてきた。小学校家庭科、中学校技術・家庭科は生活に密着した教科であり、キャリアにも大きく関わる教科である。また、子ども一人ひとりの生活環境や思い描く未来は様々で、多様な考え方や価値観を認め合う学習が必要となる。7名の実践者は、「一人ひとりに合わせた指導をどのように行うとよいか」や、「様々な考えを伝え合えるようにするにはどうすればよいか」等、「ナゴヤ学びのコンパス」に照らし合わせながら工夫を凝らし、実践をつくり上げた。

意見交流タイムでは、「『ワクワク・ドキドキ』から始まる探究的な学び」をテーマに、家庭、技術・家庭の授業づくりについて意見を出し合った。参加した保護者の方からは「グローバルな視野を取り入れた問題解決学習も考えてみてはどうだろうか」という助言をいただいたり「日頃は無口な子どもが、調理実習の後に急に鮭のムニエルを作ってくれた」というエピソードを教えていただいたりすることができた。

III 今後に残された課題

子どもの生活の土台である「家庭」の在り方は様々であり、これからも更に多様化していくと考えられる。また、生活を支える「技術」はものすごい速さで発展し、予測困難とも言われている。

このような状況の中で、私たち教員は子どもたちに「よりよく生きていく力」を身に付けさせる必要がある。技能を習得させるだけの授業から脱却し、仲間とともに意見を出し合いながら解を導き出していくような授業をつくり上げていくことが今後の課題である。教科の仲間が集い、アイデアを出し合い、「ワクワク・ドキドキ」のタネを散りばめた授業をこれからも追究していく。また、保護者の方の助言にもあった「グローバルな視野」を取り入れることで、地球市民としての問題解決学習に取り組ませていくことも重要な課題である。これからは世界に、そして未来につながる授業づくりが求められている。